



佐伯地区医師会廿日市支部  
わき・ちあき  
脇 千明先生

# 小児の発熱について

小さなお子さんをもつ、お父さん・お母さんにとって子どもの急な発熱は困りものです

## なるほど!!健康講座

問合せ 廿日市市保健センター ☎@1610

発熱の原因は多々あり、川崎病や熱中症も原因になりますが、感染症が主です。感染症には大きくウイルス性と細菌性があり、多いのはウイルス性で、大半はいわゆる「風邪」です。中にはインフルエンザや、プール熱など早期に治療・隔離が必要な場合もあります。原因が風邪であれば大抵は心配はいりませんが、状況次第です。細菌性には扁桃炎、肺炎、腎盂腎炎などがあり、いずれも抗生剤の投与が不可欠です。とくに注意がいるのは、乳児の敗血症や髄膜炎で、発症から治療開始までの時間が大切になります。

熱があっても元気でごはんを食べて遊んでいるようであれば、慌てて救急病院を受診する必要はありませんが、原因をはっきりさせるため、通常の時間帯にお医者さんに診ていただきましょう。

そこで、慌てる必要があるときですが、注意していただきたい点は全身の状態と随伴症状です。救急を受診する目安として、意識がもうろう・けいれん・41度以上の発熱の持続・顔色や唇の色が悪い・嘔吐など呼吸状態が悪い・生後3カ月未満・ぐったりしている、などの症状があげられます。このようなときは、重

篤な疾患の可能性があり、たとえ夜間でも救急病院に相談しましょう。

次に、家庭で様子を見るときにの注意点です。熱さましは、体温が何度になつたら使えばよいのでしょうか？ 実は、熱さましを使う決まった体温はありません。発熱は、原因になつたウイルスや細菌を弱らせようとして起きています。ですから、高温になつても普段と変わらず元気であれば、お薬を使う必要はありません。しかし、本人が熱に負けて38度でも活気がなく食欲がなかったり、ぐずりがひどいようなら、熱さましを使いましょう。

小児に使用できる熱さましは、一番作用の弱いもので、1〜2時間だけ熱を1〜2度下げる効果しかありません。時にはまったく下がらないこともあります。狙いは、体温を少し下げて機嫌がよくなれば、水分や栄養が取れるだろうという所にあります。たとえ下がらなくても、水枕などを使用して体を冷やすことと、少しづつでも水分を補給して脱水にならないように心がけてください。水枕は脇の下・足のつけ根に置くと効果的です。間隔が6時間以上あいたら、また熱さましを使ってみましょう。